

孤独・孤立対策連携プラットフォーム（仮称）準備会合 発言録

1. 日時：令和3年9月27日（月） 17：00～17：20

2. 場所：中央合同庁舎第4号館共用第2会議室

3. 議事及び発言

- (1) 開会
 - (2) 坂本孤独・孤立対策担当大臣発言
 - (3) 各参加団体より発言
 - (4) 加藤内閣官房長官発言
 - (5) 菅内閣総理大臣発言
 - (6) 閉会
-

(1) 開会 ※司会 大西連 内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与

(2) 坂本孤独・孤立対策担当大臣発言

皆さん、こんにちは。孤独・孤立対策担当大臣の坂本哲志でございます。

今年2月からの7か月間、孤独・孤立対策担当室が司令塔となりまして、各関係省庁と連携しながら孤独・孤立対策に取り組んでまいりました。

私が孤独・孤立対策室を立ち上げた際に、想像力を働かせて、そして、これまでの霞が関にないような知恵を出してほしいという訓示を職員の皆様方にいたしました。そして、孤独・孤立のような問題は、官僚が最も不得手とするものであり、NPOなど、最前線で活躍されている方との連携が鍵になると、再三、事務方の方々に話してきたところであります。

これまで孤独・孤立対策に関する連絡調整会議を立ち上げまして、各府省の副大臣が参加をするということで、政府一体となって取組を進めてまいりました。

国の大きな指針でございます骨太方針2021で、孤独・孤立対策の基本的方向性を示したところでございます。骨太の方針では、NPO等の連携の基盤となるプラットフォーム形成を支援することも盛り込んだところです。

コロナ禍で厳しい中でありましたけれども、孤独・孤立対策に取り組む関係者の皆様の意見を直接聴く機会を通じて、NPOあるいは社会福祉協議会等の様々な機関、団体の情報共有や連携の場が必要という認識を改めて強く感じてまいったところであります。

このプラットフォームは、間違いなく我が国のレガシーになります。ということ

をしっかりと理解していただきまして、本日は、孤独・孤立対策担当室を創設していただきました菅総理、昨日、アメリカから帰国されたばかりでございますけれども、今日、オンラインであります、参加していただきました。同時に、孤独・孤立問題に対して大変な支援を続けていただいております、加藤勝信官房長官にも参加をしていただきました。いかに今この社会の中で、孤独・孤立問題が重要かということを物語っていると思います。

全国的NPO等の支援を行う中間支援団体、分野ごとの全国団体等の有志の賛同を得て、準備会合を開くこと、大変うれしく思い、そして、意義のあることだと感じております。今後も積極的に支援をしてまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございます。

(3) 各参加団体より発言

○参加団体を代表して新公益連盟から発言

新公益連盟の白井智子でございます。孤独・孤立プラットフォーム準備会合の開催に当たり、御尽力いただいた官民関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

NPO、社会的企業の業界組織である新公益連盟では、特に孤独・孤立に関わる36団体から成る専門部会を今月立ち上げました。寄せられた声を三つ端的に御紹介します。コロナ禍により、子育てに対して重いストレスと不安を抱えている親子が増えています。LGBTQに関しては、そもそも何人が自殺で亡くなっているかすら、把握できていません。宮城県沿岸でのアウトリーチに取り組んでいますが、必要な人に必要な支援が届いていません。ほかにもホームレス支援、自殺予防、障害者支援、子供・若者支援といった団体から深刻な現場の声が届いております。

孤独・孤立対策を急ぐため、民間としてプラットフォームの設立を進めてまいります。政府としても、孤独・孤立への取組を続けていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

○全国社会福祉協議会

全国社会福祉協議会でございます。全国社会福祉協議会は、都道府県・指定都市社協とともに、全国の市区町村社協、民生委員・児童委員、社会福祉法人・福祉施設、NPOなどと協力をし、様々な地域生活課題を抱え、孤立・孤独の状態にある人々の支援を推進してまいりたいと思っております。そのため、国レベルでのプラットフォームは非常に大切であり、役割を期待したいと思っております。

○全国社会福祉法人経営者協議会

全国社会福祉法人経営者協議会の磯と申します。私どもは全国で約8,000の社会福祉法人が加盟をしておる団体でございます。日々高齢、障害、子供たちへのサービス

の提供を行うとともに、それらの分野を超えて生活を支援するための活動を進めております。孤独・孤立など、生活困窮への支援は、私ども社会福祉法人の使命であり、存在意義の根幹であると考えております。

現在、これらの課題に対し、それぞれの社会福祉法人において、また、複数の社会福祉法人が連携して取組を進めております。具体的には、子供の学習支援をはじめ、生活困窮者への相談支援や居場所づくりなどを行っております。

今後も社会福祉法人として、このプラットフォームを通して、様々な団体と連携を図りながら、生活困窮者支援をさらに進めていきたいと考えております。

○認定NPO法人日本NPOセンター

日本NPOセンターの吉田と申します。元来、NPOは参加を重視して活動する団体でございます。こうした団体が小規模であっても多様に地域の中に存在することで、孤独・孤立の緩和につながるものだろうと考えております。各地域の実情に合わせて、こうした団体を多様に小規模であっても生み出すこと、育むこと、そして、官民を超えた対話の場を地域ごとにつくり出すこと、そうした取組の後押しになるプラットフォームをつくればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○新公益連盟

新公益連盟の白井です。新公益連盟からは、24日金曜日にプラットフォーム設立に向けた要望書を政府に提出しております。その中で、孤独・孤立に対応するノウハウの共有と発信、政府への政策提言の取りまとめをプラットフォームの役割とし、年度内の設立を目指すべきとお伝えをしました。今回来られている全国組織の皆様と連携をしながら、プラットフォームの設立準備を急ぎたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○SNS相談コンソーシアム

大空です。まず総理には、孤独という個人の問題を社会問題として広げていただいたことに、心から感謝申し上げます。また、長官にも様々な御尽力をいただき、感謝申し上げます。

孤独・孤立と言っても、それぞれ全く別物であります。それぞれがどういったもので、そして、孤独・孤立対策の対象が誰なのか、政策の目的は何なのか、いま一度しっかりと議論をする必要があるのだと思います。こうした議論を丁寧にした上で、こうしたプラットフォームも活用しながら、NPOと官と一緒に協力をして、予防型の孤独対策も含めて、政策を推進していただけるよう、共に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○NPO法人自殺対策支援センターライフリンク

NPO法人ライフリンク代表の清水です。相談支援の連携といったときには、枠組みのレベルと実践のレベルがあると思います。民間団体同士の連携は、机上の空論にならないためにも、私は実務レベルでの取組を進める中で、それをベースにした枠組みをつくっていくべきだろうと思っています。ただ、一方、相談支援においては、官民における連携も非常に重要なわけですが、自治体や関係府省との連携というのは、枠組みがなければ、なかなか実務が進みません。ですので、本プラットフォーム準備会合においては、民間団体同士だけでなく、官民がどういうふう to 実効性のある連携を図っていくことができるか、その枠組みづくりに向けた議論もできればと思っています。

○一般社団法人日本いのちの電話連盟

日本いのちの電話連盟佐合です。どうぞよろしくお願いいたします。私はいのちの電話の活動に参加して、人が生きていく上で何よりつらいことは、孤独・孤立であるということを学ばせていただきました。コロナ禍でそのような立場の人たちがさらに追い詰められていると感じています。この準備会合がその方々に少しでも実りあるものになるよう、願っております。

○よりそいホットライン（一般社団法人社会的包摂サポートセンター）

よりそいホットラインとして、10年間、毎日、24時間電話相談で皆さんのお声を聞いてきました。コロナはつながりのない方を直撃しています。孤立している人を直撃していますし、全国で支援者の数が不足で、全国の支援の温度差もすごくたくさん残っています。民間の支援団体が連携をして全国ネットワークをつくっていくことで、現場の実感、当事者の声、そういったものが政府に届くように頑張りたいと思います。

○一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク

奥田です。よろしくお願いいたします。生活困窮者の支援に長く携わってきましたけれども、経済的な困窮と社会的な孤立はワンセットです。ですから、この二つを必ず見据えた対策が必要だと考えています。従来の社会的な包摂として、家族、地域、企業、そういうものが包摂の仕組みとして70年間ぐらい役割を果たしてきましたけれども、今なかなかこれが難しい。このプラットフォームは、恒久的な社会づくりの基本になるような、長い視点での取組にしていきたい。法整備も含めて、しっかりと議論していく場にしていきたいと思っています。

○認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

居場所による交流と相談による支援、この二つを軸に菅政権のレガシーである孤独・孤立対策を官民協働で進めて、孤独・孤立のない社会をつくりたいと思います。

そのために、全国に5,000か所あるこども食堂も、その一助となるように頑張りたいと思います。

○一般社団法人全国フードバンク推進協議会

米山と申します。よろしくお願いします。私といたしましては、プラットフォームを形成していくことによって、本日のように横のつながりが生まれることがとても重要なことだと思っております。また、現場の声を政策に生かしていくという観点からも、大きな意義があると感じております。今後も全国のフードバンク団体の皆様と本日お集まりの皆様との理解と協力関係の構築を深めながら、孤独・孤立の問題に弊会としても取り組んでいきたいと思っております。

また、孤独・孤立対策を創設いただき、この問題への対策を積極的に推進いただきました菅総理に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

○セカンドハーベスト・ジャパン

芝田です。どうぞよろしくお願いいたします。私たちは、フードバンク活動を通じ、誰もがどのような状況においても安心して食べていける社会、フードセーフティーネットの構築を目指しています。今回のような全国規模での連携プラットフォームを設立するということは、大変重要だと考えています。関係省庁や団体が連携することで、必要な方に情報や支援がしっかり漏れむらなく届くように、実効性のあるスキームが構築できるように尽力できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○シングルマザーサポート団体全国協議会（認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ）

しんぐるまざあず・ふぉーらむの赤石でございます。シングルマザーサポート団体全国協議会の代表もしております。

コロナによってシングルマザーの困難というのは、非常にあぶり出されました。まずオンライン、リアル、いろいろなきっかけ、様々なつながりをつくる独り親の支援団体への助成が必要でございます。また、現場の声を反映した行政の対応を変えていくことが必要です。特に若年ママへの対応というのは、虐待防止にもなります。

昨年、独り親、低所得世帯、子育て世帯への支援に力を入れてくださった菅政権に大変感謝をしております。ありがとうございます。

○NPO法人全国女性シェルターネット

DVの民間シェルターの全国団体のシェルターネットです。DVや性暴力などの被害は大変深刻で、国、自治体、民間団体、市民、みんなで力を合わせて、これ以上の被害を食い止めるための行動を、今、全力で行わなければならない状態です。

今回、行政と様々な活動をしている団体がこうやってつながり合うことで、課題が一

層クリアになって、より効果的な取組を協働して進めることができたらと思っています。よろしくお願いします。

○NPO法人子育てひろば全国連絡協議会

奥山です。子育てひろば全国連絡協議会は、乳幼児の子育て家庭の居場所と交流の場を運営している子育てひろばや子育て支援センターの全国組織です。

子育て家庭の孤立というのは、人生のスタートの孤立でもあります。新型コロナウイルス感染症により、さらに厳しい状況に置かれております。予防型を施行する私たちの活動も、多様な分野の皆様と連携して、次世代に期待できる日本の未来というものを示していければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(4) 加藤内閣官房長官発言

連携プラットフォーム準備会合の設置に当たり、日頃から御協力をいただいている皆さんに改めて感謝を申し上げます。

お一人お一人の発言時間が短かったところではありますけれども、皆さんの発言を伺い、多くの方から御賛同、また、こうした取組への期待が伝わってまいりました。大変心強く思っております。

コロナ禍が長期化する中で、頼るところがなく、経済的にも厳しい状況に置かれ、孤独や孤立に陥る方々が多くなっております。このように、顕在化・深刻化する孤独・孤立の問題に社会全体で向き合い、多様な悩みを抱える方々に手を差し伸べるためには、人と人、特に支援者同士のつながりを築き上げていくことが不可欠であります。

このため、政府では、孤独・孤立対策担当室に設置をした連携支援タスクフォースにおいて、各府省庁の支援措置の充実、また、使いやすい柔軟な制度運用を検討し、各府省庁の関連施策の体系化、NPO支援予算60億円の執行促進などに取り組んでまいりました。また、霞が関内の公募で採用した2名の職員も担当として加わり、本会合の開催に向け、準備に当たられたと聞いております。

これから始動する連携プラットフォームは、皆さんの力で成り立ち、そして、発展していくものであります。政府としても、連携支援タスクフォースを活用し、本プラットフォームの議論、活動を全面的に支援してまいります。

孤独・孤立に悩む人を誰一人として取り残さない社会の実現に向けて、本日お集まりの皆さんとともに取り組んでいきたいと思っております。引き続き、御協力をよろしくお願い申し上げます。

(5) 菅内閣総理大臣発言

皆さん、本日は誠にありがとうございます。内閣総理大臣の菅義偉です。

長引く新型コロナの影響は、私たち社会のあらゆるところに及んでおります。望ま

ない孤独・孤立の問題は、一層深刻さを増しております。特に、昨年の自殺者数は、11年ぶりに対前年比で増加するなど、看過できない状況にあります。一方、困難な状況にある人々への相談、支援、居場所づくりといった皆様方の活動も、新型コロナの中で大きな制約に直面し、大変な御苦勞を重ねておられると思います。

こうした中、孤独・孤立の問題に政府を挙げて取り組まなければならない、そうしたい思いで、私は今年2月に坂本大臣を孤独・孤立担当の大臣に指名をいたしました。3月にはNPO等を支援するための60億円の緊急対策を行い、現在も坂本大臣を中心に皆様の意見を伺いながら、取組を進めているところであります。

今後も支援を必要とする方と行政とのかけ橋として活動されるNPO等に対し、毎年度の予算を含め、支援を続けてまいりたいと思います。

本日は、孤独・孤立に関するプラットフォーム設立準備会合です。この問題に立ち向かうためには、様々な角度からのアプローチが必要だと思います。こうした場を活用し、御参集の皆様をはじめ、多数の支援を行う団体が幅広く継続的に、かつ心を一つに連携していくことが大切だと思っております。

このプラットフォームにより、NPO等の連携の輪が大きく広がり、誰もが一人ではない、そう思える社会づくりに大きく貢献されることを期待いたしております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

(6) 閉会

以上